

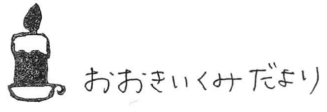


NO.10 2017. (2.20)

12月5日、二期最後の避難訓練をしました。大きな地震が来たという想定で、大人が鳴らす笛の音を聞いて近くの大人がそばに集まり、いつも集合する駐車場は倒木の危険があるのでさらに1つ外れに公園の広場に避難する...という内容です。ひろびろは春から毎月必ず地震や火事、火山の噴火などの災害を想定して避難訓練を続けてきました。笛が3回鳴ったら大人がそばに集まるということに練習し、始めはあちこちを徘徊してはいましたが、小じょうとちやうど平歩で行ってしまっていた人もいました。「自分の命は自分で守る」「まずは手に持てるものをその場に置いて危ないで大人のそばに集まる」とことを徹底してきたことで、回を重ねるごとに集合の時間が短くはなりました。当初ひろびろに困っていたとよく言われる「これは本当の火事や地震で訓練した。大人の指示がなければ大丈夫」とよく聞きとどけ、可成り行動できずはうらやまがした。今日は何もが遊ばず最中に帽子を脱いでいたので、「今、もし本当に地震が来て、上から木が倒れてきたらどうなる? 大切な頭を守りたい。いつも帽子をかぶっているね。」と集合しから話すと、「しまった。」という顔をして訓練が終了してはいるものの、帽子を耳から外して行く人もいました。帽子が「おもしろい子」に「これは何でかぶっているの?」と聞いてくるのも、具体的に自分で行動、行動の感想は「この方がよい」と落ちるなどです。

この「笛が3回鳴ったら大人のそばに集まる」という基本的な訓練の他にも、石川一森と熊と遭遇したら...という熊を刺殺する笛(は鳴らす)集合し、ピッパの方向に熊の話を聞く「熊想定」の訓練や、お家の方向のお出迎え待たせり訓練(皆さん「災害伝言版」ほうまく操作でできた?) 10月には「不審者が園内へ侵入した」という想定で「不審者訓練」も実施しました。この日は実は昼過ぎの訓練を予定していたのですが、「不審者」役の人が想定外に午前中に現れては、夕方7時「本当に怪しい人が来たのよ?」と竹刀でカンカン色したものを叩いて大きな音を出し不審な男性を見て恐怖を感じて逃げます。不審者を刺殺しては鳴らす笛は鳴らす。大人はこれに「アンバーも復讐情報共有し、子どもは自分で自分のそばに集めて避難を開始しました。美穂さんのそばに集まると「早く逃げよう!」と叫び、礼くんは「怖くありません」と不審者というものを具体的に想像できなかった。子どもは「おれをオバケ?」という存在は「怖い」のかもしれない。そこで美穂さんが言ったように「本当に何かあるから大人が子どもを守りまわす。」ということでした。この時にも感じているのは、実際に子どもは逃げたので、避難訓練は常に考えと同時、この「本当に何かあるから大人が絶対にあきらめず子どもの命を守るから」ということで、子どもは大人に信頼し、子どもは訓練の目的の一つもわかっていないことでも、絶対にあきらめず守りまわす大人のそばに集まるとよく聞きとどけ、子どもが自分自身の身を守ると考え、同時に、大人を信頼する安心感の中で日々過ごすというように、いつも原に戻す。過去の震災の防災訓練は、ひろびろのスタッフはいつもそれぞれの車の中に、お水、水のボトル、食料品などの避難用品一式を携帯して歩いています。万が一、災害中に避難に遭遇した場合は、お家の方向のお出迎え待たせり待たせり時間がかかってもいいから、子どもは命を守りまわすことにします。

来年は自然災害などない穏やかな一年にできるようにと祈りつつ、月頃からの備えはいつしかかりはじめるので、新しい年を迎えたいと思います。  
:美穂子。



12月に入り おおきいくみの クリスマスプレゼントづくりが 始まりました。 おおくり・くりの子どもたちは何度が経馬候している おおきいくみのクリスマス。 プレゼントをゆくり丁寧につくること。自分が贈る側(サタさんになる)ということとは、 だいたいのイメージは ついているようです。 プレゼントづくりの初日。「何かを作る」ということが好きな人たちは興味を示し、作業 しています。ところが まだまっぼくりの人にとっては「作品」というイメージ 今日にぞも持た 帰りたいたいという気持ちがありました。「お母さんやお父さんに内緒にしちせおうわ」「 クリスマスにサタさんになろうわ」「喜んでくれるかな」とこの日まで想いを ぶらませていくことを 伝えました。 おおくり・くりさんはそれを積み重ねてきました。

プレゼントづくりの2回目。礼くんが「れいくんお母さんにあげるといいよ。 遊ばせようよ」「お母さんにもつくるよ」と誰かを思いながら作り始めていました。 前回は プレゼントづくりにあまり興味を示してはなかった ショウちゃんもやってきて「さくらちゃんもやっ てみようかな...お父さんにつくろうかな」とプレゼントづくりに加わりました。礼くんが「お母さんの好きな色はねー」するとショウちゃんも「お父さんはむらさきが好きかも」と子ども同士の会話で 誰かのために誰かを思いながら つくりあげていく時間になっていくのがわかりました。 空太くんは、「ぼくはーおばあちゃん大好きなんだー」とおばあちゃんを想ってつづいてます。 言うには「秋の田んぼで空太くんはおばあちゃんにお土産を探してきてと、田んぼで 拾った石を見せに来たことがありました。石はジジ 普通の石なんだよが、これが特別 な石に見えてきたのを感じました。

プレゼントをつくりながら「誰にあげようかな...どんな色が好きな...」「喜んでくれるかな...」などなど 想いを込めては、この時が「なんてステキな時間なんだろう。子どもたちを見ている感じがした。ひろびろの子どもたちはそんな風に、心を動かす時を 過ごしているんだな...」というのをこの日が 感動していました。

プレゼントは ひとりひとり違う色、形です。 心を思いはたかひり たかひり込められていると思います。 どうぞ 手に受け取った時、想いも気持ちも受け取って下さい。 ステキなクリスマスに なりますように... ★ 今年も子どもたちと過ごす時間が たくさんの学びとより気づきとになりました。 ゆくり ゆくり 一年を振り返り ステキな お休みに 過ごせますように... みなさま よいお年を お迎え下さい。 :美穂

ひろひろの森の木の実たち 12月 トチノミ (栴の木) マロニエ:フランス語

森の木々もすっかり葉をおとし、静かな冬を迎えました。木の葉が落ちてくると木の枝ぶりが冬のま、青な空を背景によく見えるように見えます。枝ぶりをそれぞれじっくりとみていると木によっていろいろな特徴があり、細かい枝や太ぼりな枝、曲がっている、まっすぐだったり、色々夏にはわからなかった部分に気づきます。また、葉の色が白かったり、薄緑だったり、この季節には普段気がきにくく、木々の姿を観察するととてもよい季節です。

今月のトチノミ、トチノキは葉が大きいため、枝ぶりがゆるやかに、糸田かい木はほとんどありません。また、枝の先について冬芽(葉年の春芽はく葉芽)は2cmほどありつややかに光っていてさわると粘つくのが特徴です。(中にはそのような芽はあまりないのもみかけや匂いもありません、米量で冬の葉や虫から葉芽を守っているのです。

木の下の土には、木におとした葉の上に2-3cmほどの茶色の臭いにおちているのを見かけられるかもしれません。その臭いを集めて、「トチモチ」とよぶお餅がつくれるらしいのですが、何度もアタタキをしては…とかで、采い(まだ)チャレンジしていません。

トチノミは丸でもなく、ちょっといびつな卵円をしていて、そこが丸とも愛らしく、にぎっているとほとんどかきまわすようになってしまふ実です。

川沿いや少し湿ったところの、大木をまわしたら、

トチノキの可能性大です。ぜひ探してみてくださいね! : 葉の臭い



＊ 田畑の様子

11月の終わり、おかしに燃やして天国へ見送り、広々と田んぼでおおくり稲の穂日を楽しんだ運動会を完成、羊の肥やしをみんぼで田んぼへ運んで無事に田んぼを終わらした。その時に大豆のさやが壊れていたので、豆を収穫作業もお返りした。列を合っていたはずなのに、今年も大豆と青大豆と黒豆が正しく混ざって出来ていました。先日のランチのデザートは煎り豆。たき火のフライパンから香ばしい香りがしてくると「おかわり」の声が弾みます。「緑のお豆が甘い」「黒豆が一番おいしい」「普通の大豆がカリッとすく」となど感想は様々。その次のランチのたき豆みそ汁にも、朝から煎っておいた豆をキッチンで蒸ごしらえを楽しみました。汁液に入れる豆もたき火で煎っていると、その香りに誘われて「ひとをたきお見！」「もう一個」とつい手が出ます。大豆をたき煎るだけで、身体が心にもよいおやつのようです。あごの栄養や歯のケアにもよく噛む、砂糖の多いおやちは理学的です。お家でもぜひお試しください。

: 英和子